北海道新聞　30年1月16日（朝刊）

光と音色 浪漫な夜

樽商大学生が企画

市内3施設でキャンドル設置

小樽商大の科目「商大生が小樽の活性化について本気で考えるプロジェクト（マジプロ）」の学生が13日夜、小樽市内の飲食店など3施設でキャンドルの明かりとオルゴールの音色でロマンチックな夜を演出する取り組みを行った。（元井麻里子）

観光客が少ない夜も小樽の街に滞在してもらおうと、1年の山田陸さん(20)ら学生4人が企画。開催中の「小樽ゆき物語」（小樽観光協会主催）のキャンドルバーを参考に、運河プラザ（色内2）とおたる屋台村レンガ横丁・ろまん横丁（稲穂1）、シュクラ（稲穂2）の協力を得て行った。

このうち運河プラザでは、お客を誘導する目的で屋外にグラスキャンドル200個を設置。屋内ではテーブルの上にキャンドル50個をともし、2時間ほどオルゴールの曲を流した。札幌から訪れていた20代の男女は「おしゃれな雰囲気で楽しめる」と評価。山田さんは「小樽らしい魅力を強調した企画を目指した。PRを工夫してまたやりたい」と話した。

▲ キャンドルの明かりとオルゴール音でロマンチックな夜を演出した小樽商大生の取り組み

北海道新聞　30年1月15日（夕刊）

キャンパスから

小樽商大
松家　仁教授

掛け持ち 多忙な非常勤講師

大学の冬休みは、次年度の授業時間割を決める時期でもあります。今回は自分の経験に基づいて、この時間割作成と、それにまつわる非常勤講師の話をしたいと思います。

数年前のことです。ヨーロッパから帰国する機内で、札幌のある大学教授がたまたま隣の席に座っていました。後日、その教授から「非常勤講師を探している」との連絡がありました。彼は道外出身で、道内にあまり人脈がないため私に頼んできたのですが、私も首都圏出身。札幌に知り合いが少ないこともあり、自分が引き受けることにしたのです。

それから数年―。週1コマだけなのですが、授業の予習、試験問題の作成と採点と、かなり忙しい思いをしています。

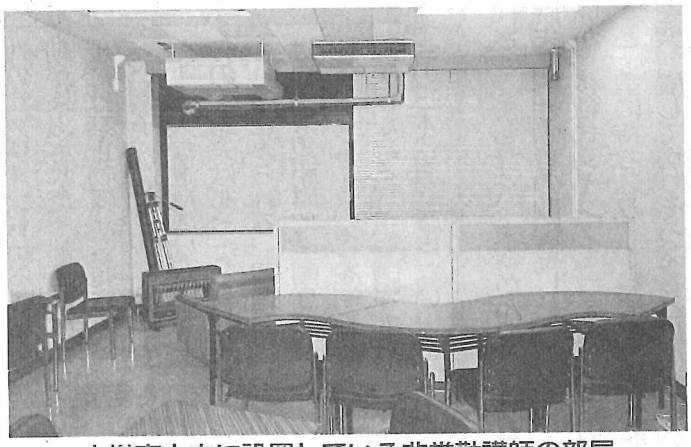
小樽商大にも非常勤の先生方がおられます。時間割の都合や専任教員の留学などの理由でお願いしています。依頼に当たっては、その先生の希望する時間を優先させるなど、きめ細かい配慮を心がけています。

ところで非常勤講師の中には、専任の仕事を探している方がかなりおられます。彼らの生活は厳しく、一つの大学で複数の授業を担当した上で、さらに別の大学でも働いている場合がかなり多いようです。

もちろん非常勤を「卒業」できる方もいますが、教員採用は、専門分野の状況に左右されますし、また最近は公募採用が多いので、非常勤が直接就職に結びつく例は減少傾向にあるようです。

少子化に伴って全国の大学では、将来の経営状況を考え専任教員の新規採用を抑制したり、任期制での採用が多くなったりするなどの傾向がみられます。その結果、時間割の中で非常勤講師の授業割合が今後も増えていくと思われます。

学生のみなさんにも父母の方々にも、こうした一部の非常勤講師の厳しい状況について、理解を深めていただけたらと思います。



小樽商大内に設置している非常勤講師の部屋